

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2373600283 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 サン・ライフ | | |
| 事業所名 | グループホームジョイフル布袋 | | |
| 所在地 | 江南市北山町東212 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年10月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月5日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 株式会社 ケア・ウィル | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年11月11日 | 評価確定日 | 平成23年12月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境作りを心がけ、利用者様個々の能力に応じて、全利用者様が生活の中で役割を持てるように支援している。利用者様のストレスの軽減、認知症進行予防の取り組みとして、全体外出行事を月1回、個別外出を2ヶ月に1回実施している。利用者様から出たつばやきをグループホーム会議で議題としてとりあげ、実現化出来るように、職員全員で対応策、解決策を検討し、実施、反省まで行っている。地域との関わりも大切にし、地域の一員として地域行事に参加させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人サンライフの一つであるホームはデイサービスと併設している。田園地帯の中にあり季節の作物の成長をいつも目にする事ができる。業務の効率化、職員の負担軽減を目標とし、実施した介護内容を、ハンディ端末でバーコードを読み取ることで、その場でリアルタイムに記録できるシステムを導入し、各職員の努力の結果全職員が操作している。また、各種研修会や資格取得サポートなども充実している。月に1回「寄り合い」を開催し、入居者全員での話し合いや避難訓練などを行っている。天気の良い日は散歩に出かけ、個別外出や外出行事などの機会を多く設け、入居者の楽しみになっている。職員は入居者が「生きているって素晴らしい」と日々の生活で感じてもらえるよう笑顔で支援している。運営推進会議には地域の各区長、各民生委員の方々が必ず出席し、地域の情報提供やアドバイスを得るなど地域と良好な関係が築かれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念に加え、事業所独自の理念を玄関・休憩室に掲示してある。設内の会議等においての問題解決や方向性についても理念を基として協議している。 | 法人の理念を基に職員で作上げたホーム独自の理念もあり、申し送り時に唱和している。入居者が当たり前の生活の中で幸せを感じてもらえるように、職員は理念を念頭に支援している。また、自己決定を尊重し持てる力を十分に発揮し、自分のペースで地域の中で暮らせるよう支援している。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 法人の理念に加え、事業所独自の理念を玄関に掲示し、地区の民生委員や区長の方や近隣の方との交流を図るようにしている。 | 町内会に加入し地域の夏祭りに浴衣を着て参加した。また、秋祭りにはホームに馬が来る。散歩時に畑仕事をしている方からすいかを頂いたり、季節の野菜の差し入れもある。中学生の職場体験の受入れや幼稚園児の訪問など子ども達との楽しい交流もある。地域の一員として社会奉仕活動参加を考え草取りなどできる事から取り組んでいる。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設での取り組みや利用者様の状況等、報告し、地域の方への理解や協力をお願いしている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者様のサービスの実際、評価へ取り組み状況等について報告や話し合いは出来ている。そこでの意見を出来る範囲でサービス向上に活かせるように努めている。 | 区長・民生委員・地域包括支援センター職員の出席で奇数月に開催している。9月から新たに家族の参加を得た。会議では入居者の状況や行事・事故報告を行い、メンバーから情報や助言を得てサービスの向上に活かしている。また、会議での意見や提案は速やかに運営に反映させるよう努めている。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事故等の報告はしており、何か相談があれば対応していただけるような関係は出来ている。 | 入居者と一緒に書類を届けたり、分からない事があれば相談をしている。運営推進会議の議事録も市に郵送している。入居者が離設した場合や家族からの苦情に対し、市の職員の協力を得て問題解決をする事ができた。消防署の救急救命の講習会に参加している。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人の方針に従い、いかなる場合も拘束をしない。 | 入居時に身体拘束(事故防止のための安全配慮)について説明している。センサーを設置し玄関は施錠していない。入居者の離設があると職員から施錠の要望があるが、話し合いで対策を考え鍵をかけず自由な暮らしができるよう支援している。ただ死角となる風呂場は浴槽が階段になっているので常に施錠している。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の捉え方が、各職員で相違がある為、虐待についての勉強会を開催し、虐待防止へと取り組んでいきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会を開催し、理解を深めるようにしている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関しては、重要事項説明書・契約書を理解して頂けるように取り組んでいる。不安や疑問があれば、いつでも聞ける体制作りをしている。また、解約にいたっては、ご家族の方と頻繁に連絡を取り合っており、十分理解して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様のつぶやきを拾ったり、ご家族の来設時や電話等で意見・苦情を伝えられた時には、緊急の打ち合わせを行い、その案件について協議、検討をしている。 | 月に1回入居者全員が集まる「寄り合い」で意見や要望を聴いている。家族からは夏祭りや忘年会の家族参加行事の後や、年2回の「ご家族満足度アンケート」を実施し、意見や要望を聴いている。出された意見・要望などは会議で話し合い反映させている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | グループホーム会議や、申し送りの際に、職員の意見や提案を聞いている。 | ハウスマネージャーは常日頃から職員の声に耳を傾け、困った事など相談に応じるよう心がけている。月1回のグループホーム会議で各入居者のケアについての話し合いや勉強会を行っている。また、職員の意見や要望も聴き、業務に関する事は速やかに対応し運営に反映させている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個別に話す機会を設け、職場環境の把握に努め、働きやすい環境作りを心掛けている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人の方針に則り、研修に関する案内を行い、法人内外の研修に参加している。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同一法人のグループホーム(同一地域)での勉強会を月に1度行っており、相互の意見交換会を開催している。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居される前に、本人様の病歴や生活歴を把握し、現在おかれている立場を理解するようにしているとともに、問題点を把握出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面接で、ご家族や介護されている方と、十分話し合う機会を設けている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人様の状況や状態を助案し、当施設での支援体制が適切であるかどうか考察している。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活の場が施設に移ったと理解し、出来る事(掃除や食事の支度)等、役割作りを行い、支援している。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 施設内の行事や外出行事に、積極的に声掛けをし参加して頂き、入居者様の状態の理解を見て頂くとともに、今後の支援方法を検討している。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人との交流はないが、馴染みの場所の捉え方を、思い出のある場所と考えて、外出行事先に極力取り入れるように努力している。 | 地元の入居者が少ないため、なかなか知人・友人との繋がりには難しいが、入居してから近隣の喫茶店やスーパーなどと馴染みの関係ができています。家族の協力で昔から利用している美容院に通う入居者がいる。また、お盆や年末年始に自宅に帰った時には近所の知人と会っている。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事や歓談をする時に椅子の配置を考えて、交流が図れるようにしている。 | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 特養や老健へ入所された方への訪問やご家族の方には、電話などを利用し、接触を図っている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の会話で、特に困っている内容を把握したときには、その問題を解消するように努めている。 | 職員は入居者が何気なく言った「つぶやき」を常に記入し、情報を共有している。また、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、些細なことでも実現に向け支援している。家族アンケートにも「入居者の性格を理解している」「本人に合った対応をしているので安心」との声があり、評価を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に、フェイスシート、生活暦をご家族に記入して頂き、情報収集を行っている。入手した情報を会議等で話し、職員全員が把握出来るように努めている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各職員が、入居者様の喜怒哀楽をチェックし、個別記録に入力したり、申し送りなどで把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 作成している。 | できない事に視点をおくのではなく、今できることをどれだけ長く継続していけるかに視点を置き、入居者や家族の要望を反映した介護計画を作成している。ケアプランチェックで毎日実行できたかどうか評価している。また、ケアについての話し合いや介護計画と実施状況の確認を行い、現状に即した介護計画になっている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 活かしている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状態に合わせたケアが出来るように取り組んでいる。 | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 区長より、「地域住民と一緒にゲートボールを行ってはどうか」との誘いを頂き、現在、検討中である。地域の方のボランティアの受け入れを行っている。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 2名の入居者様がかかりつけ医の往診を受けている。 | かかりつけ医への受診は家族と出かけている。家族が無理な場合には職員が同行している。1週間分の個人記録を書面にて伝えている。受診結果や薬の変更等はパソコンに入力し、業務日誌におとしている。本人、家族共に安心できる馴染みの受診を支援している。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携加算を行っており、看護師とは日常の問題点などの支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した場合は、定期的にお見舞いも兼ねての状態把握やご家族への連携に努めている。必要に応じて、病院のソーシャルワーカー、施設相談員とも連携している。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 法人の方針で、原則車椅子の生活になった場合などは、ご家族や介護支援の方に入居前に理解して頂いており、他施設への入居を勧めることになっている。 | 重度化や終末期の対応については入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。入居者の身体状況変化を見ながら家族やかかりつけ医等、ケア関係者と意向を確認している。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急時の対応の仕方(心臓マッサージ・初期対応)の勉強会に参加し、実践力を身に付けている。急変時の対応については、マニュアルを事務所と電話口に掲示している。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練(消防署の協力を得た)を行い、日中時間帯や夜間時間帯を想定した訓練を実施し、避難経路の確認を行っている。地域の避難場所も把握している。 | 年2回の消防署立会いの避難訓練を6月に実施している。年明けに2回目を計画している。毎月、入居者と「寄り合い」会合を開催しており、その中で突如、火災、地震の避難訓練を毎回行っている。備蓄は食料品、水等をデイスサービスと共通に建物内倉庫に保管している。 | |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様は、職員の言動や態度に非常に敏感である為、入居者様の前では他の入居者様を含めた会話をしないように心掛けている。 | 職員は命令口調にならないように、常に入居者の誇りやプライバシーを尊重している。入居者の想いや意欲を大切に、自己決定ができるような声かけや促し方を心がけている。時には居室にて、新しくできる事を一緒になって考え、持てる力をより発揮してもらうよう働きかけをしている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その日、着る服や、水分補給時の飲み物の選択、余暇時間の過ごし方等、入居者様の意見を尊重している。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 極力そのように努力している。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族が季節の衣服や、美容院へ付き添って行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様の嗜好を取り入れた献立を作成している。準備・片付けは、職員と一緒に頑張っている。 | 献立は法人内の栄養士に栄養面等、アドバイスを受けている。入居者は職員と買い物に出かけたり、調理や配膳、一人に役割を担ってもらうことで、できる事を行い生活の自信に繋がっている。職員の見守る中で入居者は自分でご飯をよそい、食器の洗い片づけを行っている。職員と一緒に食事をし、入居者の身体状況に合わせ、量的な調整も行っている。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事時間帯の水分補給は当然ながら、10時・15時の休憩時間を必ずとり、水分の提供や、食事だけで栄養摂取が困難な方へは、栄養補助を行っている。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後は、行えていないが、夕食後に必ず職員が確認することになっている。義歯洗浄もなるべくご自分で行って頂けるように声掛けを行っている。 | | |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中・夜間ともに、トイレで排泄して頂けるように声掛けを行っている。 | 入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しているが、ほとんどのの方が自立している。紙パンツを使用の方には夜間だけ声かけをしている。職員は入居者が失敗した時、周りの入居者には分からないように居室に誘うなど、さり気なく声かけをし羞恥心や不安を軽減するための配慮がある。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のある・ないを把握する中で、出ていない方には、牛乳や食物繊維も多い食品等を提供し、個々に対応している。散歩や体操を行い、体を動かして頂くようにしている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 基本的に順番が入浴担当に業務上決められている関係上、15時～17時の間で行っている。気の合った利用者様同士、ゆっくり入浴して頂いている。 | 2日に1回入浴をしている。お湯はかけ流しで季節に合わせた菖蒲湯や好みの柚子等の入浴剤を使っている。風呂好きの方が多いが、嫌いな方には職員の無理強いのない誘導で実施されている。浴槽は大きくゆったりと足を伸ばし、寛いだ気分で入浴ができる。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自己の判断で自由に休息や仮眠できるようにしている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 食前薬・食後薬の管理を服薬確認表に則って、間違いのないように服薬を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 縫い物、お米研ぎ、庭の草取り等、自宅でやってみえた事をなるべく継続して頂く事で、それが役割作りになっている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 個別外出を2ヶ月に1回行っており、入居者様個々の希望に沿った計画を立て、出掛けしている。 | 散歩は2グループに分け、周辺の田園を歩いている。2カ月に1回の個別外出では、近くのフラワーパークに出かけたり、動物好きの方はペットショップに出かける等、入居者の希望に合わせた対応をしている。全員で清洲城に出かけたり、大衆演芸を楽しんでいる。今後は馴染みの場所に出かけることも取り組みたいと考えている。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個別外出や、昼食外出に出掛けた際、職員の見守りのもと、なるべくご自分の財布からお金を出して頂くように支援している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 季節の挨拶(お盆・正月)は、入居者様に暑中見舞いや年賀状を書いて頂いている。希望があれば、ご家族に電話を掛けるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下には、外出した時の写真を掲示し、リビングには、季節の壁画を作成したものを飾っている。日付が分かるように手作りの大きな日めくりカレンダーをリビングに掲示している。 | 高い天井のリビングは窓が大きく開放感がある。入居者はソファでテレビを観たり、テーブルでぬりえを楽しんでいる。和室からも台所からもリビングが一望できる。ベランダには入居者が作った干し柿がつるしてあり、入居者は日光浴などを行っている。庭の畑で草花を育て季節感を感じながら居心地よく過ごしている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビ前のソファは、気の合った方と一緒に座って過ごして頂ける。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居される際に、今までの生活の中で馴染んでいた物品や好みのものを持参して頂いている。 | 居室には洗面台が設置されており、朝の洗面やおしゃれを楽しむことができる。馴染みの家具が置かれ、写真等が飾られている。掃除は自分で行っている。引き出しには洗濯物の衣類が片付けやすいように、何が入っているのか大きな字で書いて貼る等、配慮されている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの理解する能力を勘案し、混乱を招かないように話しかけたり、失敗を叱責することがないように努めている。 | | |

(別紙4(2))

事業所名: グループホームジョイフル布袋

作成日: 平成24年2月29日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 2 | 地域との交流が少ない。地域貢献があまりできていない。 | 年に2回の地域清掃に職員も参加し、地域住民の方と一緒に地域の美化活動に努める。 定期的に、事業所南側の塚の清掃(枯葉の除去や草むしり)を行う。 | 清掃日を地域の方から教えて頂き、職員へ連絡をし、参加するよう努める。 天気の良い日の散歩の時間などを利用し、利用者様も一緒に行える時は一緒に行く。 | 12ヶ月 |
| 2 | 48 | それぞれの利用者様のできる能力を見出し、生きがいや楽しみにつながるような取り組みが、特定の利用者様のみで全利用者様には行えていない。 | 毎日の生活の中で、各利用者様のできる能力を見出し、それを役割につなげる活動の実施。 | 各居室担当者にて、利用者様のできる事を挙げ、それを全職員が把握し、毎日の生活の中で実践して頂く。 | 6ヶ月 |
| 3 | 49 | 日常的な外出支援の実施。 | 定期的な個別外出の実施。 | 毎月、勤務表を組む段階で、個別外出の予定を組み込んで行く。利用者様の自宅がある場所や、昔よく行ったなじみの場所等をご家族からも情報を得て、外出計画を立てていく。 | 6ヶ月 |
| 4 | 39 | 外出時の身だしなみについて、服装以外にも意識をできるようにする。 | 全体外出や個別外出、ご家族との病院受診時など、服装以外にも、女性の方には化粧などの声をかけて希望者には実施していく。 | 共用の化粧道具を購入する。(ファンデーション、口紅、頬紅等) 希望される利用者様には、外出前に職員の見守りのもと、出来るだけご自分で化粧して頂けるよう支援する。 | 6ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |
| 6 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。